
essais ころみ 2018年8月

2018年8月1日（水） 猛暑続き

先週末に台風12号の影響で雨が少し降ったきり、7月9日以来猛暑が続く。8月に入ったが、このまま異常な暑さは続くようで、体力維持にせつせと食べて、体重の上昇も今はよしと見逃す。食欲が落ちないのはさいわい。

- 「自分の軸」考 ① - 守るべきもの

過日結婚した「岡田准一」は読書する人と知ったのは12年前だった。「Grazia」2006年7月特別号にインタビュー記事が載った。知人からその記事のコピーをもらって初めて知った。「岡田准一 ～本が人生の教科書だった～」。コピーは今もとってある。

この中で感心したことが2つ。一つは、『今も昔も本当に偉い人の言っていることは皆おなじ』。インタビュー時点でまだ25歳、それがわかるということは、それこそ偉い。

もう一つは、幸せとは何かを問われて、『守るべきものがあること』。たずねた側は、家族とか恋人とか？と聞きかえしているのだが、自分の想いや自分に対する人の想いなどをさしているのだった。

この2点から「岡田准一」のファンではないけど、人間個人として敬意をもっている。特に、「幸せとは守るべきものがあること」は、「守るべきもの」が生きていく上での軸であるだろうと考えるから、そのことを20代半ばで自分の答として獲得していることが尊敬にあたいする。

2018年8月8日（水） 晴時々曇り

昨日は立秋、今朝かすかに夏の終わりを感じた。異常な暑さが続いていたので、心身ともに一息ついた感じ。昨夜はほぼ一ヶ月ぶりに熱帯夜にならなかつた。でもやはり今日も日中は暑い。残暑お見舞い申し上げます。

- 「自分の軸」考 ② - 今さらながらの開眼

我に開眼。少々気どった言いまわしだけど、年を重ねると、そういうことがあるものだ。

3年前の2015年12月21日の朝、鏡にうつる自分の顔を漫然とみながら、頭は何かを考え、歯磨きをしている時に突然、「そうだ、わたしの一番守りたいと思っているのは、わたしの精神性なんだ！」。

たぶん頭の中では直近の出来事か、見聞きしたこと、あるいは仕事や人生をふりかえていたのだと思う。その何がスイッチになったのかわからない。鏡のわたしがわたしに、言葉ではっきりと言い切ってくれたよう。

言葉ではっきりと意識しなくても、心身はそう働いてきたのだった。過去の印象的な出来事を思い出し、そのすべてに合点がいった。一番守りたいことの究極、できればそれは早く自覚した方がいい。

働き方いき方、自分の「道」はそこを出発につくることになるから。

2018年8月13日（月） 晴れ時々曇り

やはり今日も暑い。でも確実に日は短くなっている。昨夜ほんの一瞬、虫の声を聞いた気がした。そら耳だったのかもしれないけど、確実に暑さの峠は越えつつある。

－ 「自分の軸」考 ③ － 『わたしには軸がない…』 －

「自分の軸」という風な言い方を身近で初めて聞いたのは、6年前のあるセミナーだった。受講者に受講動機を順番に話してもらっていた中で、熟年のお一人が次のように話した。

『世の中に少しはお返しをしようと、ボランティアをいろいろやりました。もちろんそれぞれにやり甲斐はありましたが、何か腑に落ちていない自分がある。そこで気づいたんです、わたしには軸がない…と』。

話す様子と表情がすごく印象的だった。社会人になり、仕事と家庭を両立し、定年退職し、長い時間の末に、〈われにかえった〉ような感じ。軸はあるはずだけど、そのことを考える間もなかったのだ。

このことから、確信したこと一つ、もともと本質的に自問するタイプの人には、いくつになっても自問をする。生活のさまざまな制約があっても、自問することから離れていても、いずれまた波が寄せる。

大なり小なり誰でも自問はする。その度合いが小さい人は、それはそれで本人にとっては自然だから、それでいい。一方、度合いの大きい人は必ずいつか大きな波がかえす。だから〈遅きに失する〉は避けたい。

「自分の軸」をあらためて考える機会になったのは、今年の2月だった。「女性チャレンジ応援拠点」の『想いをカタチにした女性のためのチャレンジ★交流会 ～活動を知り、自分軸を見つける～』。

いろいろな場面、いろいろな人たちが「自分の軸」という言葉を使っているが、さて、自分の軸とは何を指すだろうと考えた。そこにつながったのが、わたしの〈開眼〉＝「自分の一番守りたいもの」だった。

2018年8月 一昨日から急に
19日 涼しくなり、秋
(日) の気配を感じる
夕空



2018年8月27日 (月) 晴れ

17日から数日の涼しさは何だったのかと思うほど、異様な残暑。それでも夜には虫が鳴きだしているから、自然の営みはすごい。この暑さももう少しの辛抱。8月も今週いっぱい。

一 「自分の軸」考 ④ 一 守と攻、インプットとアウトプット 一

「自分の軸」の軸は何にあたるのか、何を指しているのか。あらためて考えて、出した答えが、「自分の一番守りたいもの」。人生の選択も、日常の暮らし方も、すべては「守」に始まり、「守」に至る。

守りは意志、目的、攻めは行動、手段。攻めといっても、正面きって闘うのは最終手段。守りたいものを侵しそうな人がいたら、まずは自分から避ける、離れる、近づかないのが常套手段。

それができない場合は相手が変わるように仕向ける、状況をつくるといった試みる。でも簡単なことじゃない。最終的に真向勝負の時には相手を上回るチカラが必要になる。

どんなチカラをつければいいのかは、自分の守りたいものに依る。大抵、自分では意識することなく、自分の守りたいものに応じた学び、インプットしている。そして外に発信、言語的に非言語的に。

インプットされたものは人には見えず、アウトプットされた時点で彷彿をされる。見た目の印象、話の内容、話し方には始まり、仕事のし方、人間関係のとり方、築き方、など等。

アウトプットの型だけ知っても、中身の質が本人のものとして伴わなければ相手を変えるチカラにならない。インプットが偏っていれば、アウトプットもまた偏り、そういうものが人の目に見える、映る。

人間、うまく出来ていると言えればできている。自分を超越することはできないから、自分で自分を刷新していくくしかない。自分の軸を自問自答して、その軸からブレず、ズレず、進めば、そこが自分の道。